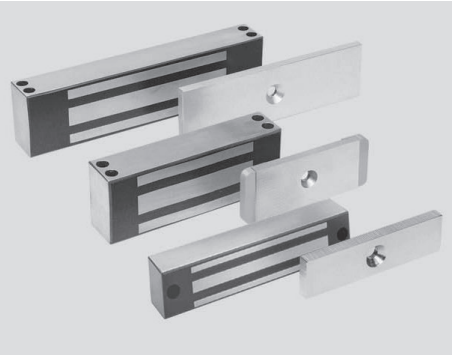
MAGNALOCK® SECURITRON ASSA ABLOY

電磁石式電気錠　マグナロック M32・M62・M82 型 屋外対応タイプ 施工説明書

このたびは、弊社製品をご採用いただきありがとうございます。施工前に本書をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
施工後は、本書をいつでも取り出せるよう保管してください。



- 本製品について……P.1
- 正しく安全に施工していただくために ……P.1
- 使用工具 ……P.2
- 仕様 ……P.2
- 本体とストライクプレートの位置ずれ許容誤差…P.2
- 寸法図……P.3
- 部品表…… P.4-5
- 施工手順…… P.6-10
- 配線のしかた
  - 1. 電気仕様…… P.11
  - 2. 指紋照合機、テンキー、カードキーなどで直接制御する場合 …… P.12
  - 3. 消磁回路 (オプション) との結線 …… P.12
  - 4. 緊急解除…… P.12
  - 5. 結線例…… P.13-14
- 取付後の確認・ストライクプレートの取付け… P.15
- 推奨するシステム構成 …… P.16
- 困ったときの対応 …… P.16
- お手入れ方法…… P.16

本製品について

●電磁石を利用し、鋼製のストライクプレートを吸着させる電気錠です。

●構成部品を全て扉の屋内(室内)側に取り付けることができるので、機械式の電気錠のように屋外側のすき間からデッドボルトをこじ開けてロック機構を壊される心配がありません。

正しく安全に施工していただくために

図記号の意味

⚠ 注意	🛇 禁止	❗ 厳守

⚠ 注意 軽傷を負うことや、物的損害が発生するおそれがある内容を示します。

- ❗ マグナロック本体を取り付ける扉枠が木製かスチール製かを確認してください。
  木製の場合、別途ブラケット板とそれを取り付けるねじが必要になります（P.8参照）。
- ❗ 過度な衝撃を避けるため、戸当りやドアクローザー等を併用してください。
- ❗ 必ず、同梱されている本体とストライクプレートの組合わせで使用してください。
- ⚠ 屋外で使用できますが、マグナロック本体表面および金属部品は鋼製で防錆ではありません。
- 🛇 本書で説明する部分以外の分解および改造はしないでください。
- ❗ 本製品の施工は知識・経験のある方が本書に従い、正しく行ってください。

使用工具

●ドリルビット(φ12.7、φ9.6)　●六角レンチ ⬡5　●スパナ ⊂10　●ハンマー

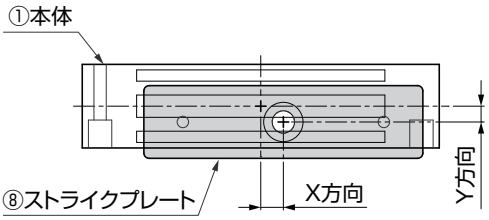
仕様

モデル		M32 型		M62 型		M82 型	
取付タイプ ※1		側板	正面	側板	正面	側板	正面
扉の開き方向 ※2		外開き	内開き	外開き	内開き	外開き	内開き
品番 ※3	標準機能	M32-M	M32-FM	M62-M	M62-FM	―	―
	B 機能付き	M32-BM	M32-FBM	M62-BM	M62-FBM	M82-BM	M82-FBM
	B + D 機能付き	M32-BDM	M32-FBDM	M62-BDM	M62-FBDM	―	―
吸着力（N）[kgf]		2666 [272]		5341 [545]		7938 [810]	
電圧（V）		DC12 ／ 24 +10% −5%					
電流（mA）		300 ／ 150		250 ／ 150		350 ／ 200	
消費電力（W）		3.6		3.6		4.8	
使用温度範囲（℃）		−40 ～ +60					
質量（kg）		2.7		4.8		9.3	
電源コードの長さ		3 m					

※1 P.3参照　※2 P.6参照　※3 各機能についてはP.11参照

本体とストライクプレートの位置ずれ許容誤差

本体①とストライクプレート⑧がお互い真正面で接するようにしてください。
本体①とストライクプレート⑧の位置ずれが下記許容範囲を超えると、接しても本来の吸着力は出ず、B機能は「未吸着(解錠)」、D機能は「開扉」出力のままになります。



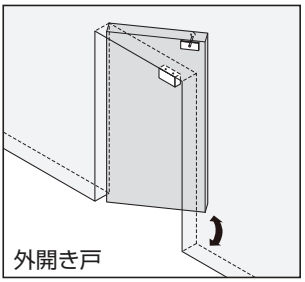
感知機能を維持できる許容誤差

モデル	X方向	Y方向
M32型	± 7 以下	± 3 以下
M62型	± 7 以下	± 3 以下
M82型	± 14以下	± 3 以下

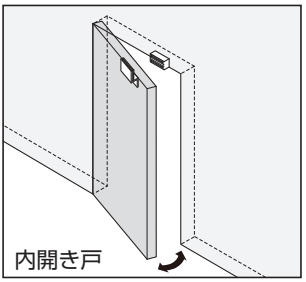
SUGATSUNE

寸法図

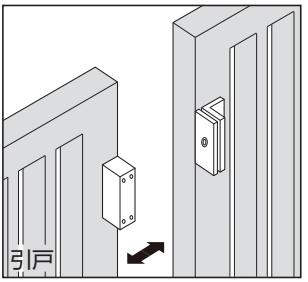
側板取付タイプ

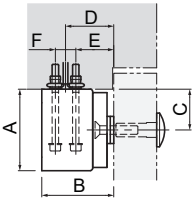


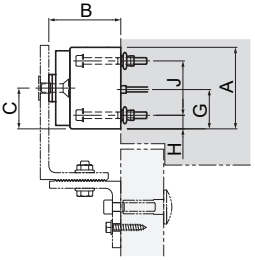
正面取付タイプ

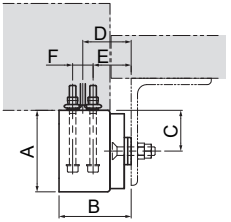


側板取付タイプ

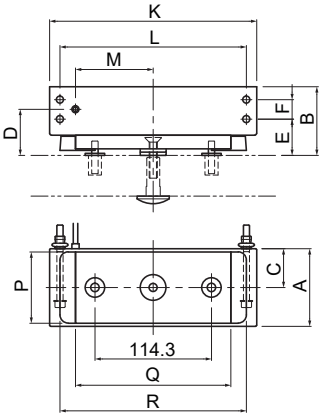


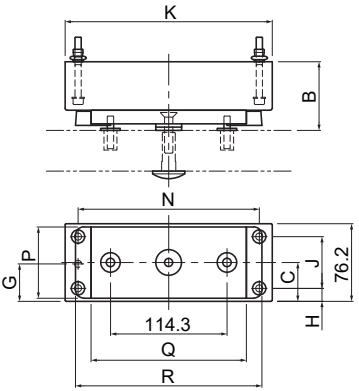






本体			A	B	C	D	E	F	G	H	J	K	L	M	N
M32M	M32BM	M32BDM	47.6	60.3	23.8	29.8	45.1	—	—	—	—	203.2	182.9	91.4	—
M62M	M62BM	M62BDM	76.2	67.3	38.1	45.1	35.5	19.1	—	—	—	203.2	182.9	76.2	—
	M82BM		76.2	64.8	38.1	42.6	33	19.1	—	—	—	304.8	284.5	127	—
M32FM	M32FBM	M32FBDM	47.6	60.3	23.8	—	—	—	11.8	25.8	—	203.2	—	—	182.9
M62FM	M62FBM	M62FBDM	76.2	67.3	38.1	—	—	—	36.8	12.7	50.8	203.2	—	—	177.8
	M82FBM		76.2	64.8	38.1	—	—	—	36.8	12.7	50.8	304.8	—	—	279.4

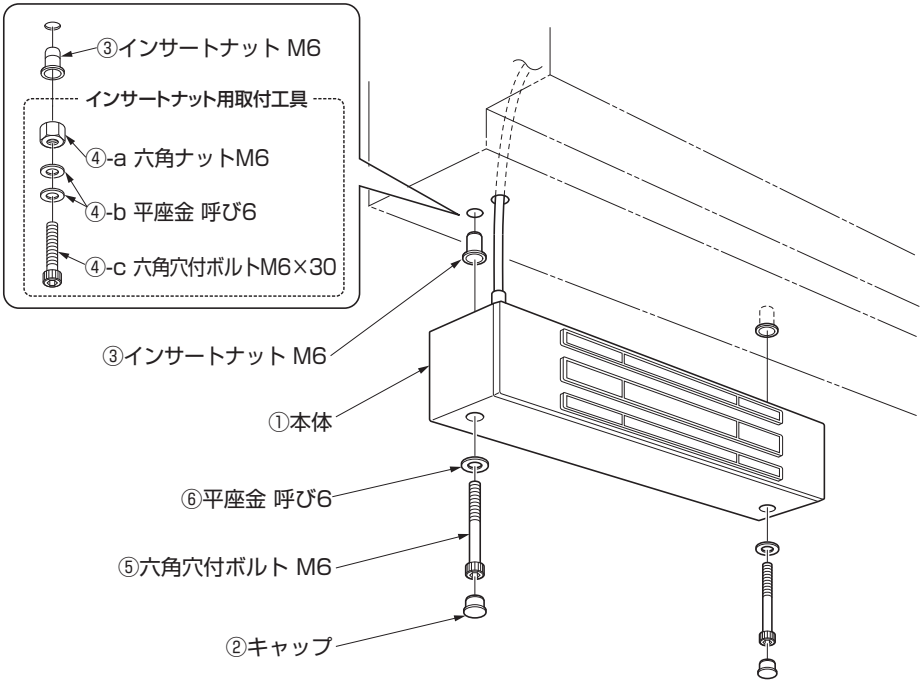




ストライクプレート				P	Q	R
M32M	M32BM	M32FM	M32FB M	41.4	158.8	—
M62M	M62BM	M62FM	M62FB M	69.9	152.4	—
	M82BM		M82FB M	69.9	228.6	—
	M32BDM		M32FBDM	41.4	—	189.2
	M62BDM		M62FBDM	69.9	—	182.8

マグナロック本体

※イラストはM32型、側板取付タイプ(外開き)

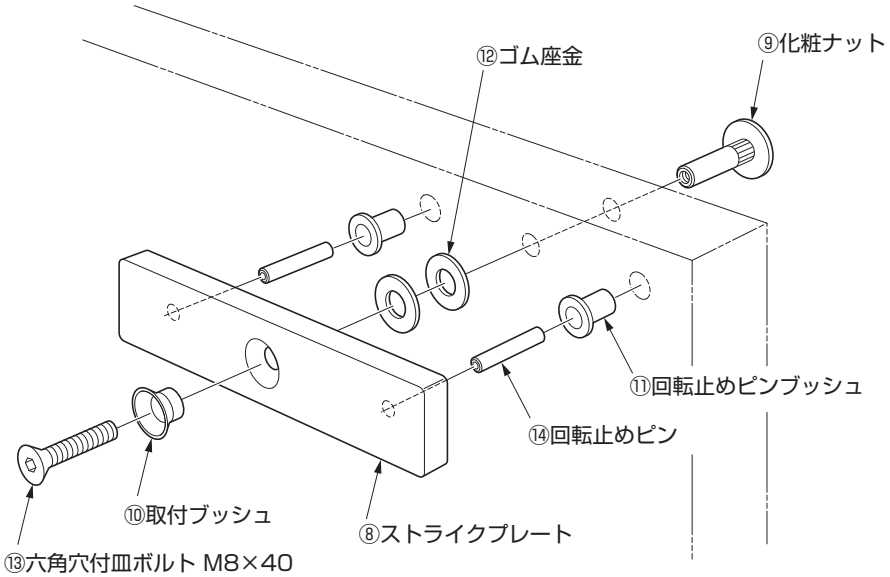


部品の種類 ＼ モデル		M32型	M62型	M82型
① 本体		1	1	1
② キャップ		4 ※4	4	4
③ インサートナット M6		2	4	4
④インサートナット用取付工具	a 六角ナット M6	1	1	1
	b 平座金 呼び 6	2	2	2
	c 六角穴付ボルト M6 × 30	1	1	1
⑤ 六角穴付ボルト M6		2(M6 × 55)	4(M6 × 75)	4(M6 × 75)
⑥ 平座金 呼び 6		2	4	4
⑦ テンプレート（紙製）…P.6 参照		1	1	1

※4 M32型は2ヶのみ使用、2ヶは予備

ストライクプレート

※イラストは側板取付タイプ(外開き)



⚠注意

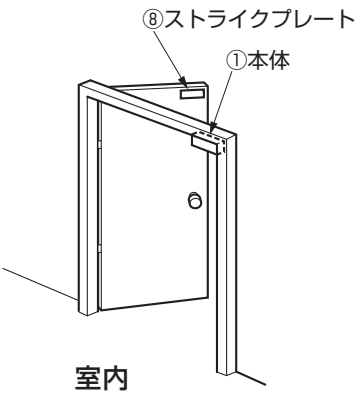
⚠ 本体表面および金属部品は鋼製なので、
吸着機能は維持しますが防錆ではありません。

部品の種類 ＼ モデル	M32 型	M62 型	M82 型
⑧ ストライクプレート	1	1	1
⑨ 化粧ナット	1	1	1
⑩ 取付ブッシュ	1	1	1
⑪ 回転止めピンブッシュ	2	2	2
⑫ ゴム座金	3 ※5	3 ※5	3 ※5
⑬ 六角穴付皿ボルト M8 × 40	1	1	1
⑭ 回転止めピン	2	2	2
⑮ ねじ緩み止め…P.14 参照	1	1	1

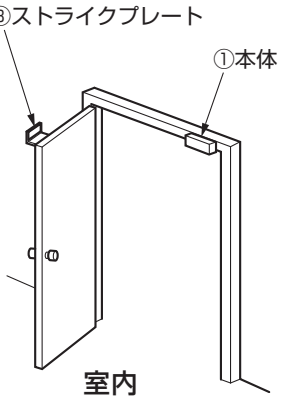
※5 通常 2 ヶ使用、1 ヶは調整用予備

施工手順

外開き扉（側板取付タイプ）

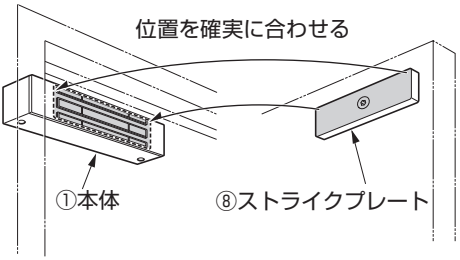


内開き扉（正面取付タイプ）



⚠注意

❗ マグナロック本体①とストライクプレート⑧がお互い真正面で接するよう、取り付けてください。



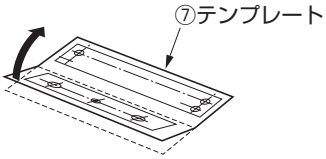
⚠ 扉の吊元から離れた扉枠および、扉の上部に取り付けることで本来の吸着力が発揮されます。

⚠ 保安上、マグナロック本体①は、室内側へ取り付けることをお勧めします。

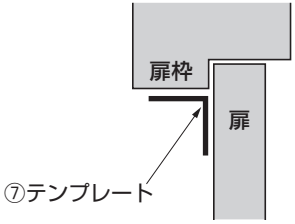
1 テンプレートを使用して取付穴を加工する

外開き扉（側板取付タイプ）

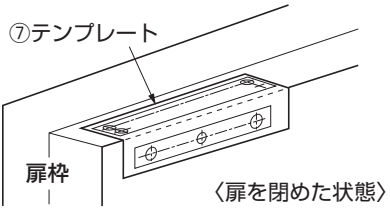
【1】テンプレート⑦を内側に折る



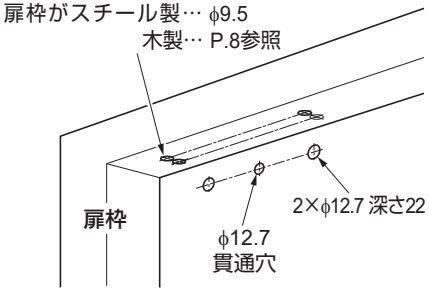
【2】**扉を閉め**、テンプレート⑦を吊元から最も離れた扉と扉枠上面にあてがう。



【3】本体①とストライクプレート⑧の取付位置、配線穴位置に印をつける。

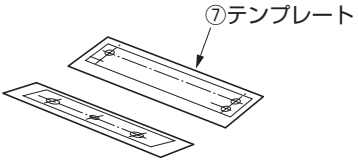


【4】印の位置に穴加工をする。

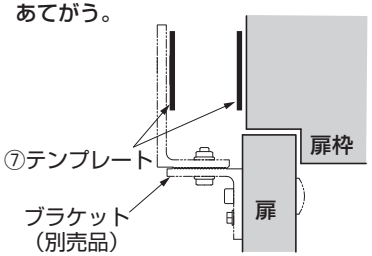


内開き扉（正面取付タイプ）

【1】テンプレート⑦を切り分ける

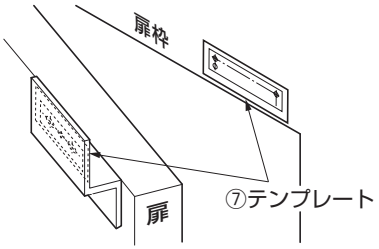


【2】**扉を閉め**、テンプレート⑦を吊元から最も離れた扉とブラケット(別売品)にあてがう。

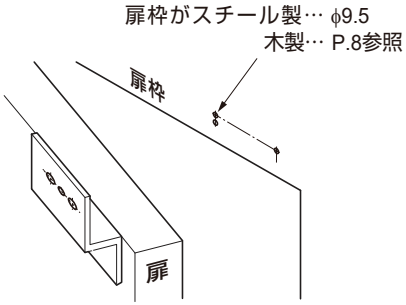


【3】本体①とブラケット(別売品)の取付位置、配線穴位置に印をつける。

※本体とストライクプレートの中心位置を合わせる

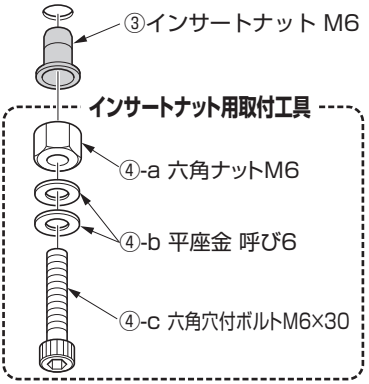


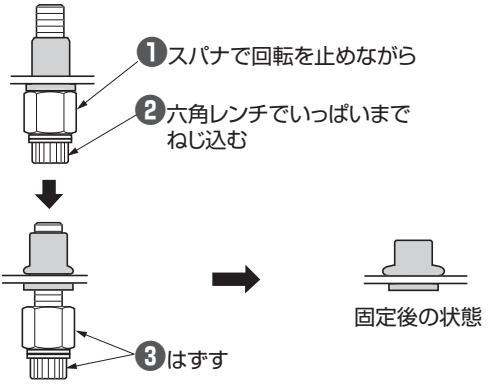
【4】印の位置に穴加工をする。



2 本体を取り付ける

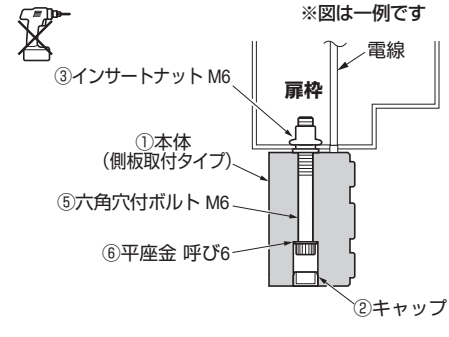
〈インサートナットの固定方法〉



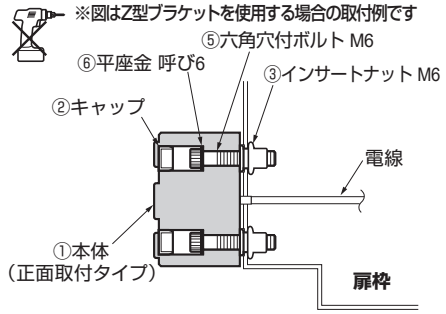


スチール製扉枠に取り付ける場合

外開き扉（側板取付タイプ）

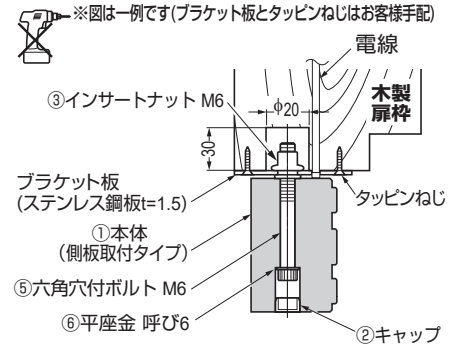


内開き扉（正面取付タイプ）

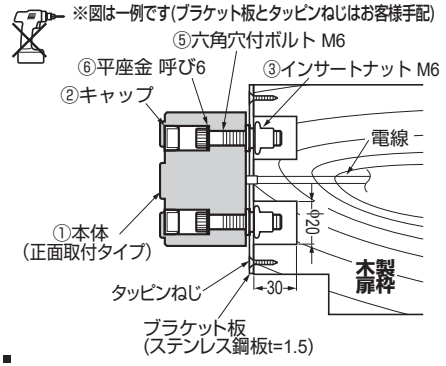


木製扉枠に取り付ける場合

外開き扉（側板取付タイプ）



内開き扉（正面取付タイプ）

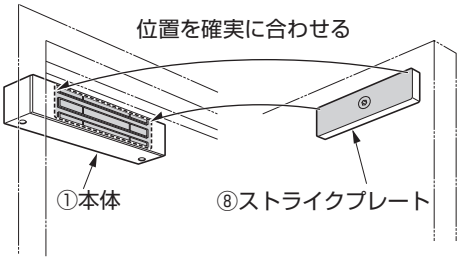


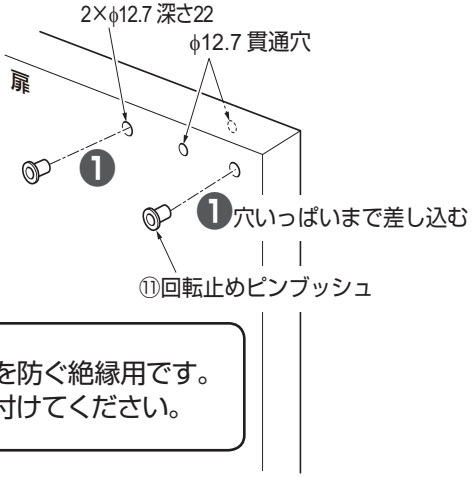
3 ストライクプレートを仮付けする

※外開き扉（側板取付タイプ）を例に説明します。

⚠注意

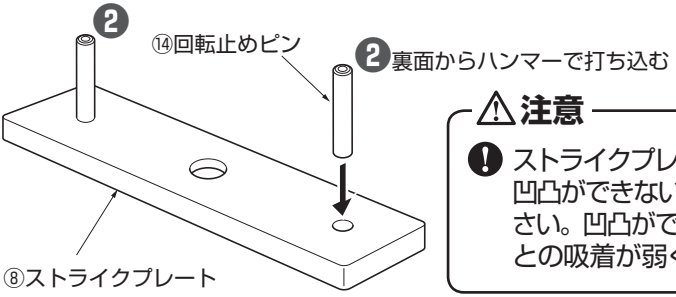
❗ マグナロック本体①とストライクプレート⑧がお互い真正面で接するよう、取り付けてください。





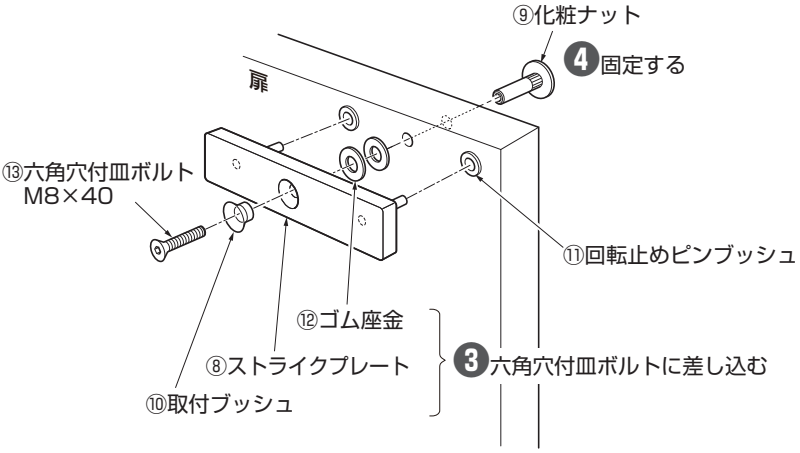
⚠注意

❗ 漏電などを防ぐ絶縁用です。必ず取り付けてください。



⚠注意

❗ ストライクプレート⑧の表面に凹凸ができないようにしてください。凹凸ができると、本体①との吸着が弱くなります。



⚠注意

- 見栄えなどの理由で化粧ナット⑨が使用できない場合、ダブルナットやUナットを使用し、六角穴付ボルト⑬が緩まないようにしてください。緩むと吸着が悪くなります。
- 取付ブッシュ⑩は漏電を防ぐ絶縁用です。必ず取り付けてください。
- ゴム座金⑫はストライクプレート⑧に柔軟性をもたせ本体①との吸着をよくします。また、扉の経年変化による吸着力低下を防ぐので必ず取り付けてください。

最終的な取付け(固定)は「取付後の確認(P.15)」の後、ねじ緩み止め⑮を塗布して行います。

配線のしかた

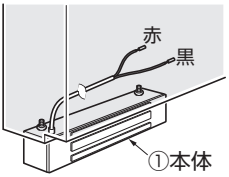
1.電気仕様

⚠注意

⚠ 本製品の入力電圧は、DC12 V/ DC 24 Vで、-5% ～ +10%の範囲で使用できます。
DC12 VかDC 24 Vかを自動で検出でき、どちらの電圧にも対応します。

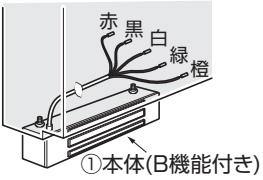
⚠ 極性を逆に接続すると機能しません。間違えないように確実に接続してください。

【標準機能】



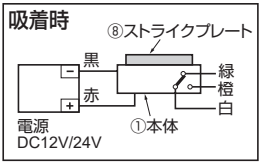
赤/ ＋側 DC 12 V - 24 V
黒/ 一側 DC 12 V - 24 V

【B 機能】 吸着・未吸着状態感知機能

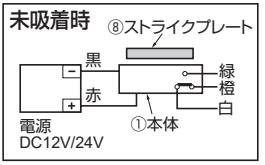


赤/ ＋側 DC 12 V - 24 V
黒/ 一側 DC 12 V - 24 V
白/ リレー COM
緑/ リレー NO
橙/ リレー NC
} B機能

●マグナロックの吸着・未吸着を確認できる無電圧C接点を内蔵してます。
●出力接点容量: DC30V 1A

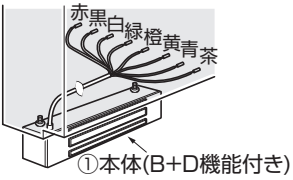


マグナロックが作動していて、扉を確実に吸着しているとき、上図のように内部スイッチが緑側に閉じます（白と緑が導通になります）。



扉のロックが確実でないとき、また、扉が閉まっていてもマグナロックが作動していないとき、内部スイッチが橙側に閉じます（白と橙が導通になります）。

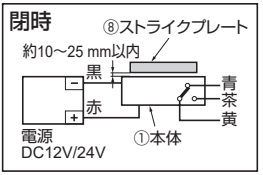
【D 機能】 扉開閉感知機能



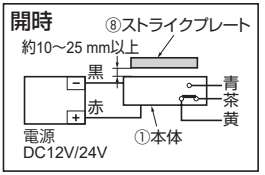
※上図はB+D機能です。
※B機能、D機能はそれぞれ独立してます。

赤/ ＋側 DC 12 V - 24 V
黒/ 一側 DC 12 V - 24 V
白/ リレー COM
緑/ リレー NO
橙/ リレー NC
} B機能
黄/ リレー COM
青/ リレー NO
茶/ リレー NC
} D機能

●本体①の作動に関係なく、扉開閉信号がとれる無電圧C接点を内蔵してます。
●出力接点容量: DC30V 125mA



扉が閉まっているとき、内部スイッチが青側に閉じます（黄と青が導通になります）。



扉が開いているとき、内部スイッチが茶側に閉じます（黄と茶が導通になります）。

⚠注意

⚠ 完全に閉まっていない場合（開き約10 ～ 25 mm以内）でも、「閉」と認識します。

2.指紋照合機、テンキー、カードキーなどで直接制御する場合

・マグナロックは通電時施錠型のため、施錠中は常時電力供給が必要です。
　電力供給を断つと解錠します。

・照合出力が有電圧（DC12V ／ DC24V）B 接点：出力端子 (+) をマグナロックの赤線に、
　出力端子 (−) をマグナロックの黒線に結線します。

・照合出力が無電圧 B 接点：DC12V ／ DC24V の電源 (+) をマグナロックの赤線に、
　電源 (−) をマグナロックの黒線につなぎ、電源 (+) とマグナロックの赤線との間に
　照合出力の無電圧 B 接点を組み入れます。

・照合出力が無電圧・有電圧にかかわらず A 接点：リレーで B 接点に変換し、その接点を
　組み入れます。

・照合出力は解錠時間が設定できる (一定時間後復帰する) タイプにしてください。

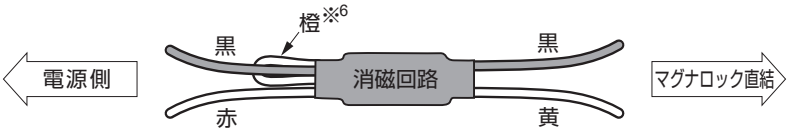
・マグナロックへの電源スイッチは、プラス側に設置してください。

・弊社のテンキー DK-26 との結線については、DK-26 に付属している説明書を参照してください。

3.消磁回路(オプション)との結線

使用する制御盤やスイッチによっては、電源 OFF 後、本体とストライクプレートの間に
少量の残留磁気が発生する場合があります。消磁回路は、その残留磁気を消失させる
部品です。

※消磁回路を取り付けなくても、通電時施錠型のため、災害などで電源が OFF になれば
　解錠となり、扉の開放が可能です。その際、少量の残留磁気により、少し扉が重く感じる
　場合がありますが、使用上問題ありません。



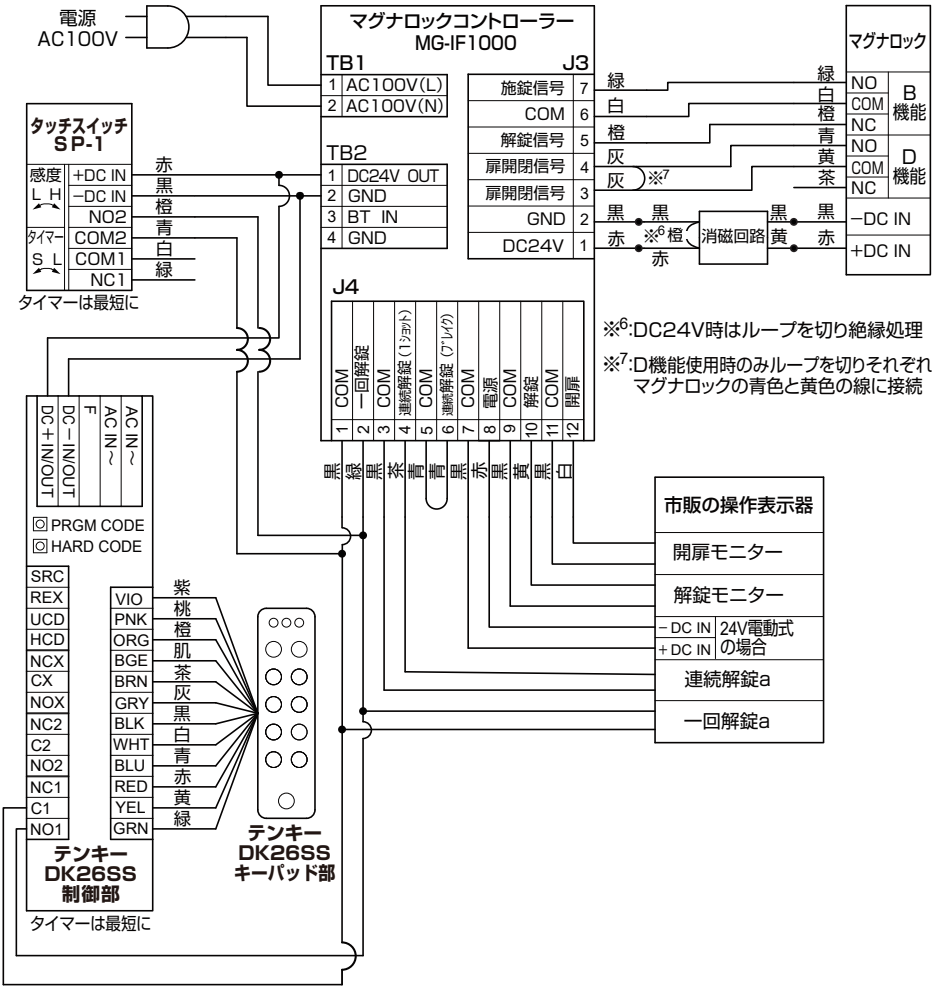
※6 24 V で使用する場合はループを切り、端部を
　絶縁テープなどで処理をしてください。

4.緊急解除

緊急時は手動または火災報知システムにより解除できるよう、マグナロックを配線する必要が
あります。弊社では確実に解除するために、電源を遮断することをお勧めします。

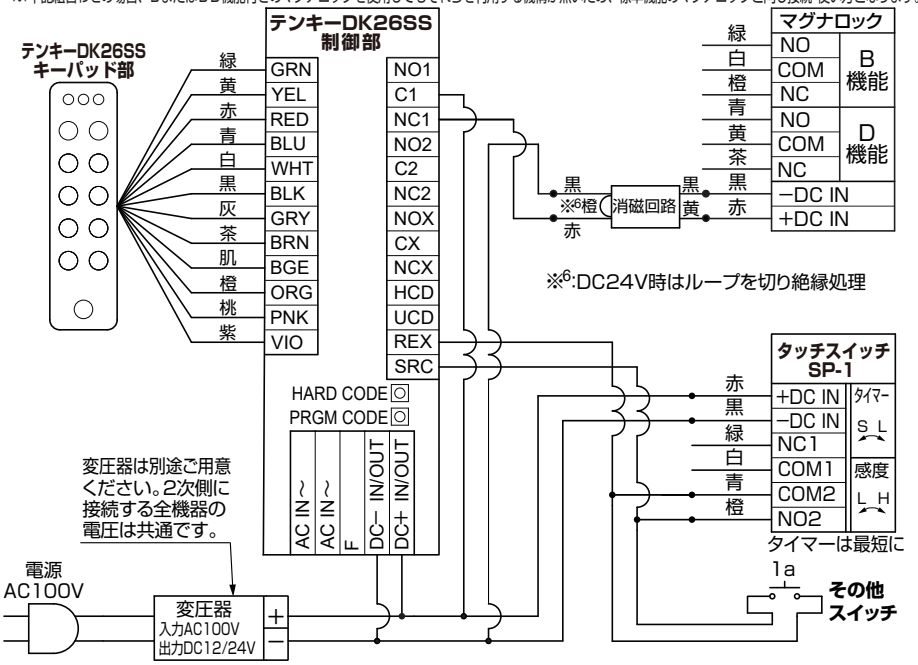
5.結線例

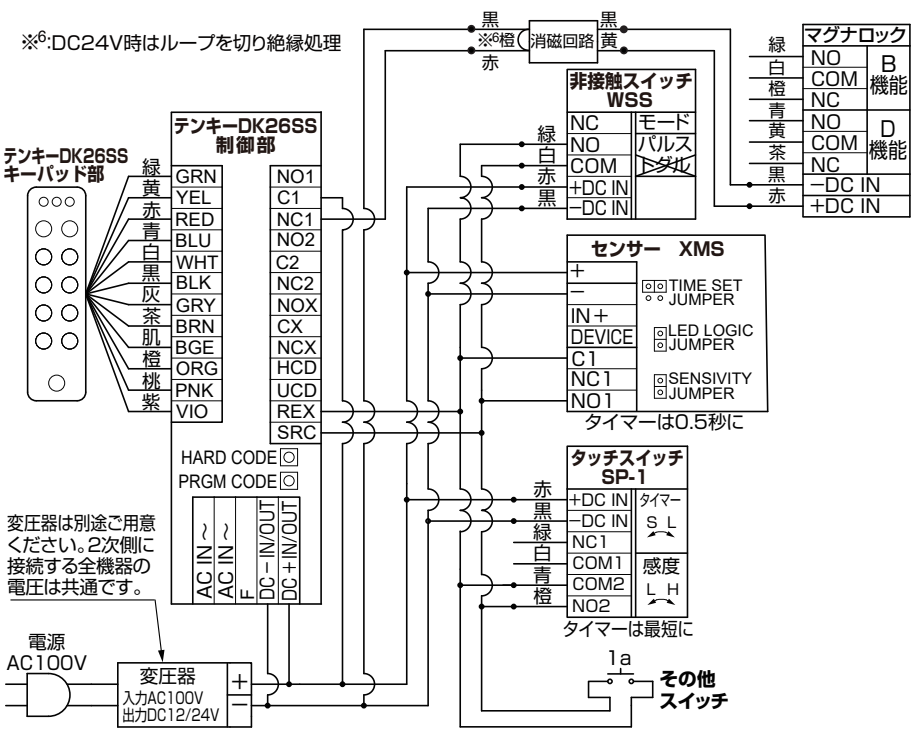
■マグナロックをIFコントローラー MG-IF-1000(オプション)で制御する例



■マグナロックをテンキーパッドコントローラー DK-26SS（オプション）で制御する例

※下記組合わせの場合、BまたはBD機能付きのマグナロックを使用してもそれらを利用する機構が無いため、標準機能のマグナロックと同じ接続・使い方となります。



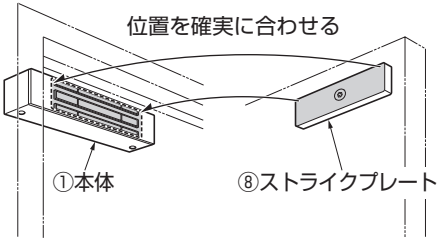


SUGATSUNE

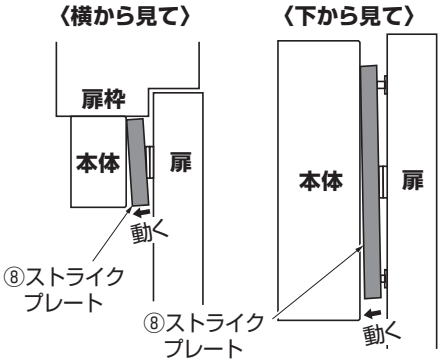
取付後の確認・ストライクプレートの取付け

【1】本体①に電源が接続されていないことを確認する。

【2】本体①の吸着域とストライクプレート⑧の位置が合っていることを確認する。



【3】扉を閉じ、本体①とストライクプレート⑧が、お互い真正面で接することを確認する。

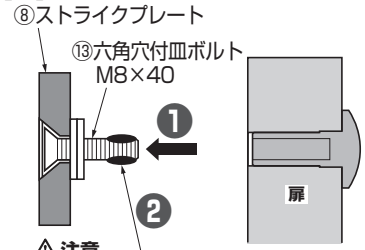


【4】本体①に電源を接続する。

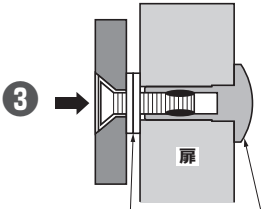
【5】扉を閉じ、本体①とストライクプレート⑧が吸着し、簡単に外れないことを確認する。

【6】解錠し、扉を開く。

【7】扉にストライクプレート⑧を固定する。



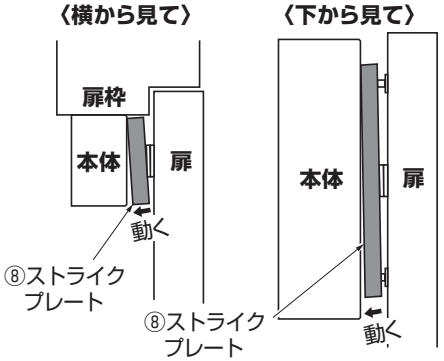
⚠注意
⑮ねじ緩み止め(付属)
❗嫌気性ではありません。塗布後10～30分乾燥させてからねじ込んでください。



⚠注意
⑫ゴム座金
❗本体①との吸着をよくします。
また、扉の経年変化による吸着力低下を防ぐので必ず取り付けてください。

⚠注意
⑨化粧ナット
❗使用できない場合、ダブルナットやUナットを使用し、六角穴付ボルト⑬が緩まないようにしてください。

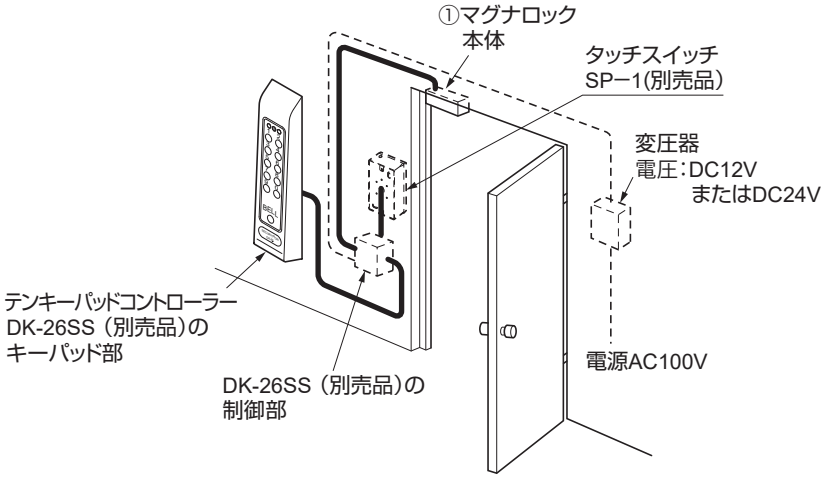
【8】扉を閉じ、本体①とストライクプレート⑨が、お互い真正面で接することを確認する。



【9】本体①に電源を接続する。

【10】扉を閉じ、本体①とストライクプレート⑧が吸着し、簡単に外れないことを確認する。

推奨するシステム構成



困ったときの対応

症状	チェックポイント	対処方法	参照
ストライクプレートがマグナロック本体に… 吸着しない または 吸着力が弱い	マグナロック本体とストライクプレートがお互い真正面で接していますか。 一見、扉が閉まっていても、ストライクプレートが本体に届いていなかったり、点接触・線接触になっていたら、吸着力はほぼゼロとなります。 目視で判別できない場合、ストライクプレートを外し、本体が「施錠」状態でストライクプレートを近づけてください。力強く吸着した場合、真正面で接していなかったということになります。	ストライクプレートを付け直してください。 再度、取り付ける際、ストライクプレートが本体に届くよう、ストライクプレート中央のボルトを１～２回、緩めてください。	P.10 P.15
	ストライクプレートと扉の間に、付属のゴム座金⑫を取り付けていますか。	ゴム座金⑫を取り付けてください。マグナロック本体とストライクプレートの吸着をよくします。	P.10 P.15
	電源容量が不足していませんか。	電源容量が不足している場合は、出力容量と必要な電源容量を確認してください。容量は消費量の２倍以上が目安です。	P.2
	本体とストライクプレートの位置ずれが、許容誤差を超えていませんか。	本体とストライクプレートの位置ずれを許容誤差内にしてください。	P.2
吸着するが、すぐに解錠してしまう	同上	同上	P.2
B機能が作動しない	同上	同上	P.2

お手入れ方法

・吸着面は、シリコンベースのクリーナーを使用するか、潤滑剤を布に付けて軽く拭いてください。

・経年変化で扉の建付けがずれ、吸着力が落ちることがあります。
吊元の丁番のねじがゆるんでいないかなど、定期的に確認をしてください。

本製品に関するご質問・ご相談は、
ご購入先の販売店 へのお問い合わせを推奨しております。
※弊社は代理店販売をメインとしておりますので、販売代理店へ先ずお問い合わせいただく事が、スムーズな対応にもなります。

SUGATSUNE スガツネ工業
LAMP 印の機能&デザイン金物メーカー
TEL:03-3864-1122(代)　平日9:00～17:30
E-mail : support@sugatsune.co.jp

2024.02　0212-15j